

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 4 日

所 属：獣医学部獣医学科

氏 名：藤井洋子 職位：教授

役 職：小動物外科学研究室担当

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5 行（80 字～200 字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

役職担当：小動物外科学研究室担当、小動物診療部門構成員、獣医外科学特論等、大学院科目のコーディネーター

自分が担当している授業科目：自身はアメリカ獣医内科学会心臓病専門医の有資格者（Diplomate of American College of Veterinary Internal Medicine (Cardiology)）であるが、座学として小動物臨床麻酔学、小動物心臓病学、実習として動物病院循環器科診療担当者として循環器科ローテーション学生に対する臨床教育、外科実習分野を担当している。

教師として何に責任を負っているか：獣医師として以前に、人としての誠実さ、人間力を備えることが臨床獣医師として知識よりも重要であることを伝えること

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
小動物獣医総合臨床 I-IV	獣医学科	必	5	150
小動物病院実習	獣医学科	選	6	20
先端獣医療	獣医学科	選	6	30
獣医総合臨床実習（外科実習）	獣医学科	必	5	150
小動物臨床実習	獣医学科	必	5	150
基礎・小動物獣医総合臨床 III	獣医学科	必	4	150
獣医学特論 I	獣医学科	必	5	4
獣医学特論 II	獣医学科	必	6	3
卒業論文	獣医学科	必	6	3
獣医外科学特論	研究科獣医学専攻	必	1	5
獣医外科学特別演習 II	研究科獣医学専攻	必	1	1
獣医外科学特別実験 II	研究科獣医学専攻	必	1	1

獣医外科学特別演習 IV	研究科獣医学専攻	必	3	1
獣医外科学特別実験 IV	研究科獣医学専攻	必	3	1

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）（分量の目安：8～12行（320字～480字））

獣医師としてプロフェッショナリズムを持ち社会貢献できる仕事をするために、科学的な思考を身に付けるとともに他者（臨床の場合は特にクライアント（オーナー）やスタッフ）とのコミュニケーションをとり、組織としてチームワークが構築できるように学生および獣医師を導くことが自分の目標である。

海外にも目を向け、自分でハードルを作らないよう意識改革を促すように心がけている。海外への壁を突破できるような、高い興味と向上心を持てるように学生・大学院生・研修医に伝えることも自分ならではの部分であると思う。

学部学生に対しては、獣医師として仕事をするためには今後どのような姿勢であるべきか、どのような思考回路が必要なのかを授業を通して伝える努力をしている。与えられる受け身の学習から脱却し、これまで学んだ基礎科目等の学問が臨床にどうつながるのかを考えるように促し、学生が能動的に必要な情報を自ら獲得しエビデンスに基づいて客観的に情報を組み立て直していくことができるようになることが私の目標である。

大学院生に対しては院生を一研究者として扱い、対等な位置でディスカッションすることを心がけている。院生へのインプットは自分の考えの押し付けはせず、自ら考え組み立てることが可能なようにルールを敷くような作業に徹するようにしている。研究を「楽しい」と感じてもらえるような興味の引き出しに成功し、私がルールを敷かなくても自分で進んでいけるようになることが大学院教育の私の目標である。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

【学部全体に対する教育】

- ・座学ではあっても、病院で実際に診察した症例を提示し、具体的なイメージが湧く様にしている。

- ・外科実習前には予習用動画（短め）を學理にアップし、実習がイメージできる様にして実習に臨めるようにしている。これにより実際の実習時にデモを行う必要がなくなり実習時間を有効に使用できていると思う。

- ・実際の症例は教科書通りなものではなく、個々それぞれ異なりそれに対応する必要があること、獣医療はオーナーmatterを含んでいるため同じ様な症例でも異なる対応が必要であること、数学的な正解がある様な分野ではないこと、などを症例ラウンドで話すことで、学術的なことだけが重要なのではないことを伝えられる様にしている。

【大学院生への教育】

・興味のあるような課題は投げるが、初めからこちらの仮説や考えは述べず、まず本人が課題について調べたり考えたりしたのちにディスカッションしている。このことで、自ら調べ、考え、計画することの過程を能動的に実施していく能力が身についていくのではと考えている。

アクティブラーニングについての取組

小動物臨床実習においては簡単な質問をし、その答えから学生の理解度を測り学生個々へのオーダーメイドな授業となるように心がけている。単純な見学におわらないよう、能動的に考える機会が与えられるよう心がけている。

ICTの教育への活用

学部学生向けおよび大学院生・研修獣医師向けのジャーナルクラブはオンラインで実施し、資料はクラウドにアップし参加者がいつでも閲覧できるようにした。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業、実習）の創意工夫（B）

②学生の理解度の把握（B）

③学生の自学自習を促すための工夫（A）

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A）

⑤双方向授業への工夫（B）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

病院実習では個々の学生の興味の度合いや実習への熱意の度合いによって内容やディスカッションの深さを変更して行なった。実習時に受けた質問はメールで返信するなどフォローアップを心がけた。

V4 基礎・小動物獣医総合臨床では、疾患に関する授業を受けていない学生に対して病気の動物に麻酔をかけることなどを授業で話さなければならず、学生の学習の順番を考えたカリキュラムへの変更を行った。試験において、授業内容を暗記するだけでは解けない問題を出したところ複数の学生から勉強法について問い合わせがあった。暗記だけでは解決できないことを意識させるという意味では、この様な取り組みは成功したのではと感じている。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

今年度は V6 総合獣医学の授業担当から外れたことから、V5、V4 の授業における取り組みは以下の通りである。

V4 の授業では、国家試験に出題された内容であることを具体的に伝え、重要な項目について意識させる様な工夫をした。前述のごとく、国家試験は暗記だけでは解けない問題が多いことから、勉強の仕方の意識改革になる様に、授業内容の背景にある基礎科目（生理、薬理、解剖など）がどのように臨床獣医学に繋がっていくのかを考えさせる様にした。

V5 の病院実習においては、過去に出題された疾患に遭遇した場合は国家試験で取り上げられた疾患であることを伝え意識させたり、合わせて国家試験では外せないポイントを口頭で伝えることを心がけた。ただし、国家試験のためだけの、試験対策授業にならないように、自分はいくまで臨床獣医師として誇れる仕事ができるような職業人を輩出できることも意識している。国家試験の予備校にならないようにしたい。

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

担当している授業がオムニバスであることから、自分に直接的な評価がなかったことから、この設問には答えられない。授業評価ではなく、研究室学生に直接試験の難易度や授業について感想聞いたりし、それを参考にした。

②①の結果はどうでしたか。

研究室学生の意見からは、改善すべき点は見出せなかった。

③②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

まる覚えするような授業ではなく、理論から理解し応用できるように授業を組み立てた。卒業論文では、初めから教員がレールを敷くのではなく、どの様なレールを敷くのかを模索するように考えさせ、その手助けにとどめる様にした。学生が行き詰まる場合はヒントとなるような情報を与え誘導することも行った。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

担当する大学院生が内科学アカデミーで研究発表を、神奈川県獣医師会学術大会で症例発表を行なった。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

私の教員としての役割は、入学者を増やすことではなく入学した学生がプロフェッショナルリズムにあふれた獣医師になるようにレールを敷くことである。したがって高校予備校からの情報や入学者の確保に関するFDに時間を費やすことは非効率であると感じる。一方で、大学教育に有用と考えたFDについては積極的に参加したつもりである。診療業務に時間を費やすことが多いことから、見逃し配信を引き続き希望する。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6行（120字～240字））

短期目標：担当する大学院生が、興味領域において銀の弾丸になりうる成果を上げ小動物循環器病学に貢献できるようにサポートしていくこと。

学部学生については、状況を冷静に観察し、集めた情報から問題を解決していく応用力を身につけられるような教育をすること。

※EBM だけではなく Narrative-based medicine も学生、研修医等に伝承すること。具体的には、科学的なディスカッションだけではなく、オーナーに傾聴したり経済的な背景を考えたり、臨床では EBM 以外のことも考えなければならない現場感を伝えたい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

シラバス, レポート課題, 試験問題, 教材（配布資料, パワーポイント資料）

FD プログラムへの参加記録

授業に関する学生からの質問のメールのやり取り

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

(「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」(大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編)から引用)

(自ら作成するもの)

1. 授業に関するもの
シラバス, 小テスト, 宿題, レポート課題, 試験問題, 教材(配布資料, パワーポイント資料など)
2. 教育改善に関するもの
(教育に直接貢献する研究, FD プログラムなどへの参加記録, 教育の工夫を示すもの(複数年のシラバス等), 教育活動関連の補助金の獲得)

(他者から提供されるもの)

1. 学生から
授業評価データ, 授業に関するコメント(授業評価の自由記述やメールのやりとり等), 卒業生から授業や教育についてのコメント
2. 同僚から
授業参観の講評, 作成教材についての意見, 同僚のサポート実績
3. 大学/学会等から
教育に関する表彰, 教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類, カリキュラムやコースの設計などについての評価

(教育/学習の成果)

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化, 学生の小論文・報告書, 学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例, 特に優秀な学生についての記録, 指導学生の学会発表などの成果, 学生の進路選択への影響についての事実, 学生のレポートの改善の軌跡